

久留米大学

御井図書館ニュース

No. 62 2006年9月1日発行

拡がるデジタル図書

情報教育センター所長 上 藤 干 城

私たちの活動と密接なつながりを持つものの一つが図書である。活動の参考資料として、思考や決断の根拠として、あるいは教養の題材として図書を日常的に利用している。

『図書』は、多様な情報の体系的な集合体であると定義することができる。学術書や教科書は専門知識の集積であり、小説や漫画はストーリーという体系の中で展開されている。新聞は日々の出来事いわゆるニュースなどを集積したものである。

従来アナログ情報の集積であった図書は、ICT（情報通信技術）の進展と普及によりデジタル化の傾向が強まってきている。歴史的な価値ある書籍や絵画、音楽などがデジタル化されたり一部の学術論文誌がWeb上で公開されることにより、より広範な活用を可能にしている。

数年前から、電子ブックと呼ばれるユーティリティも販売されている。文庫本なら数百冊も収納可能で、各種辞典も同包されているので内容のより正確な理解も可能となり便利である。またこのブックでは静止画はもちろん動画や音声も活用できるので、臨場感ある読書が可能となっている。

また最近、国立国会図書館では、過去に公開された貴重なWebページのアーカイブを所蔵して利用者の便宜を図る試みを行うことを決定した。

このように情報の集合体としての図書は、私たちの身の回りに無数に存在し、より身近になった。携帯電話などの携帯情報端末から、いつでもどこでも図書を読むことができる。ユビキタス図書といってもいい状態である。あるいは、図書はウェアラブル化され、私たちは図書という衣服を身につける時代ともいえる。

注意を要するのはデジタル化によって情報がより広範に且つより簡便に発信可能になったことであり、利用者は情報の真偽と品質を見極めることの必要性が高まっている。この能力を養成することも教育の重要な役割ではないだろうか。

わたしと“読書”

文学部 情報社会学科 高濱 有 莉

本嫌いの友達から、「本のどこが楽しいの?」と聞かれたことがある。私にとって、初めて本を読んだ時から、本は“おもしろい”ものであり、読書は“楽しい”ことだった。正直、「どこが」「何が」と、具体的に聞かれると困ってしまう。その時の私は、質問してくる友達に「なんとなく」「読んでみたらわかるよ」など、曖昧な答えしか返すことができなかったのだ。今になって思い返せば残念なことである。

高校時代、本の良さをこう表現する先生がいた。

人間は1人では1種類の人生しか歩めない。けれど、本を通して、自分以外の誰かの人生を経験することができる。

この言葉を聞いたとき、私の中で、友達の問いに対する1つの答えが出た。自分の見ている世界と、知らない誰かの見ている世界との差異とでも言うのだろうか。知らなかったことを知る感覚や、自分にとっては信じられないような著者の思考、自分とよく似ていて共感してしまう体験や、まったく違う環境で生きてきた人の主張など、ふだん触れることのない世界が、“本”という形で腕の中に収まってしまう。要するに、私にとって、読書の楽しさとは、“読む”ことよりも“知る”ことだったのである。

私が始めて本を読んだのは、小学1年生の時で、『ロビンソン・クルーソー』だった。平仮名とカタカナ、少しの漢字しか習っていない私には、書いてあることの半分も理解できなかったが、ロビンソンの無人島生活に驚きと感動を受けた記憶がある。あるいは、『ドラえもん』に出てくる「どこでもドア」を手に入れたとしたら、同じような気持ちになるのかもしれない。良い本に出会うことは自分の“世界”が、未知の“世界”と繋がる瞬間なのだ。それを楽しいと感じることは不思議ではないだろう。

本の楽しみ方は一つではない。人によって異なるだろうし、同じ人でも時間と共に変化することがある。近頃、私にとっての読書は「知る」こと以外にも「思い出す」という楽しさを備えてきた。小学生の感じる世界観や、中学生の悩みを綴った本を読むと、彼らは今の自分では考えられないような事で一喜一憂している。けれど、確かに私も感じたことのある懐かしい感情で、読んでいるととても暖かい気持ちになるのだ。

私にとって読書とは、好奇心を満たしてくれたり、感情を豊かにしたり、張り詰めた気持ちを落ち着かせてくれるといった、大きな役割を持っている。だからこそ、私はこれからも本を読み続けるのだろうし、その貴重な時間を、他では得がたいものとして、大切にしていきたいと思うのだ。

筑後文化資料室所蔵品の展示のお知らせ

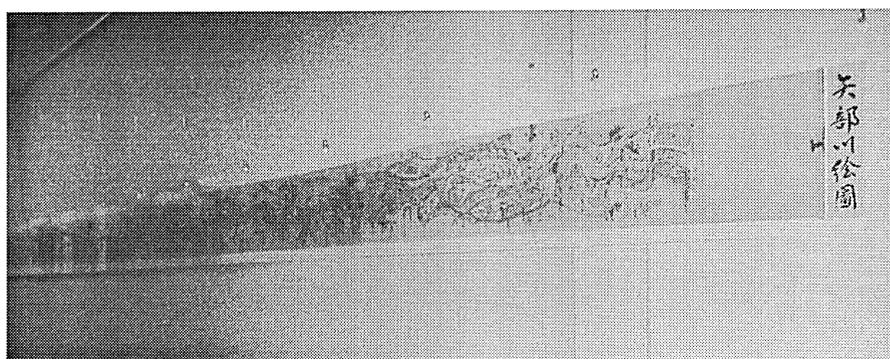
文化部 狩野啓子

久留米大学御井図書館に平成16年4月に「筑後文化資料室」を開設してから、2年半が経過しました。この資料室は、筑後地域に散在する価値ある文化資料を収集・整理し、展示・公開すると共に、周辺地域の同種施設とのネットワークを構築することを目的として設置されたものです。「筑後」とは、行政単位としての筑後地方のみならず、久留米を中心とした筑後川流域及び有明海文化圏を含む広い範囲を対象としております。

おかげさまで、次々と貴重な資料のご寄贈をいただき、以前からの所蔵資料も併せるとかなり充実してきました。これまでにご恵与いただいた資料の一部には、「真崎甚三郎蔵書」「森土秋蔵書」「久留米市史関連資料」などがあります。「丸山豊蔵書」は現在搬入中です。いずれも、地域の宝ともいふべき貴重資料です。公開までには、まだ相当の時間がかかると思われますが、今年度から収蔵資料の一部の複製をパネル展示いたします。

今回は、『筑後川絵図』『矢部川絵図』『大原道の記』『原采蘋漢詩』の4点を展示します。各作品のデジタル資料製作は、京都大学の井手亜里教授のご協力により、井手プロジェクトが開発中の新型高精細スキャナーシステムを使用して行ないました。また、印刷・ラミネートパネル作製については、福博総合印刷に特殊な方法に挑戦していただきました。

川筋の景色を見ながら歩いていくような気分になる長さ760cmの『筑後川絵図』、精細に描かれた590cmの『矢部川絵図』、久留米藩お抱えの優れた絵師であった三谷有信のスケッチ付き小郡紀行『大原道の記』、『漢詩寄書帖』に収載されている秋月出身の幕末の女性漢詩人原采蘋の自筆漢詩の4点は、趣は異なりますが、それぞれ筑後の歴史や文化に思いを馳せるきっかけになるものだと思います。ささやかな展示ですが、500号館地下書庫への渡り廊下に足を運んで、どうぞゆっくりご覧下さい。



寄 贈 図 書 (学内関係者)

2006/05/01～2006/08/31受入分

寄贈者氏名	編著者名	タイトル	出版社
石口 修	石口修著／久留米大学法学会編	所有権留保の現代的課題 (久留米大学法政叢書：15)	成文堂
関子 善信	関子善信著	税法概論 4 訂版	大蔵財務協会
高松 基助		落下傘ニュース：米軍マニラ司令部発行復刻版	新風書房
多賀 太	多賀 太著	男らしさの社会学：揺らぐ男のライフコース (Sekaihisso seminar)	世界思想社
西土 純一	西土純一著	不動産鑑定士会計学：対策と実践演習 (License books)	東京法経学院出版
西土 純一	西土純一著	不動産鑑定士会計学：対策と実践演習改訂版 (License books)	東京法経学院出版
西土 純一	[青木繁画]／東京文化財研究所美術部、石橋財団石橋美術館編	青木繁：海の幸 (美術研究作品資料：第3冊)	中央公論美術出版
久留米大学教育・学習支援センター	秋本耕二、世利洋介編	21世紀の課題と経済学 (久留米大学公開講座：31)	五絃社
久留米大学教育・学習支援センター	保坂恵美子編著	老いを探索する：高齢期を豊かに暮らすために (久留米大学公開講座：30)	五絃社

※敬省略50音順

寄 贈 雑 誌

健康・スポーツ科学センターの先生方から個人で所属されている学会の会誌を寄贈いただくことになりました。

タ イ ト ル	出 版 社
Advances in exercise and sports physiology	Japan Society of Exercise and Sports Physiology
Circulation journal	Japanese Circulation Society
Exercise and sport sciences reviews	Academic Press
International journal of sports and health science	Japan Society of Physical Education, Health and Sport Sciences
Journal of occupational health	Japan Society for Occupational Health
Journal of physiological anthropology	Japan Society of Physiological Anthropology
Medicine and science in sports and exercise	American College of Sports Medicine
九州体育・スポーツ学研究	九州体育・スポーツ学会
産業衛生学雑誌	日本産業衛生学会
産業ストレス研究	日本産業ストレス学会
体育学研究	日本体育學會
体力科学	高山書院
日本運動生理学雑誌	イセブ
日本循環器病予防学会誌	日本循環器管理研究協議会
日本生理人類学雑誌	日本生理人類学会
日本臨床スポーツ医学会誌	日本臨床スポーツ医学会
日本心臓リハビリテーション学会誌	総合医学社

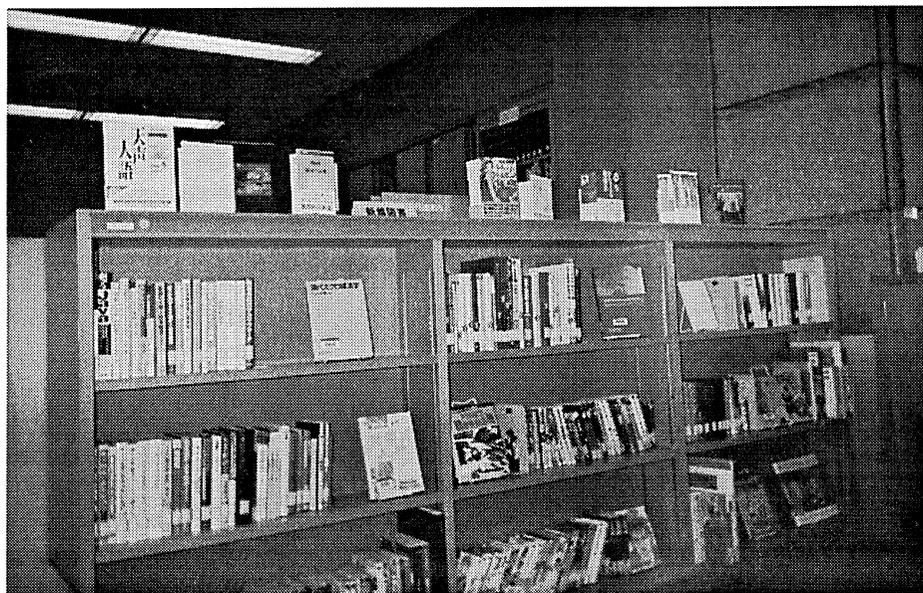
*2006年発行分は、「1階未製本雑誌コーナー」に配架しています。

♪♪♪「新着本コーナー」の展示が変わったことにお気づきですか ♪♪♪

学生用として購入した図書は、2階閲覧室に配架する前に「新着本コーナー」に展示しています。

図書館では、より多くの利用者に手にとって見ていただけるよう展示の仕方を変えてみました。講義用・研究用の専門図書、参考図書のほか、文学賞受賞作品、ベストセラー本、児童書など、様々な図書を紹介しています。

ぜひ図書館に来て、まずは観てください。“図書館”のイメージが変わるかもしれません。



図書館の利用統計をみると、学生一人あたりの貸出冊数が少ないことにあらためて気づかされます。一人で何冊も借りていく学生がいる反面、一冊の本も読まずに大学生活を終える学生もいるのではないのでしょうか。なんだか、勿体無いような気がします。

『読書力』（齋藤 孝著、岩波新書）という本のなかで著者は、「本格的な思考力は、すべての活動の基礎」であり、「読書は思考活動における素地をつくるものだ」と述べられています。また、本はなぜ読まなければならないのか」という問いに、「自分をつくり」「自分を広げる」ことができると答えられています。読書をすることで、自分の中に豊かな価値観や世界観をつくることができれば、素晴らしいことではないでしょうか。



図書館にはいろいろな本が並んでいます。ゆっくり探せば興味をもてる本がきっと見つかると思います。

何を読めばいいのか迷った時には、図書館発行の『知の玉手箱』もお役に立てると思います。

図書館利用状況（2006年度）

区分	月	4月	5月	6月	7月	8月	合計
開館日数		29	27	30	31	30	147
入館者数	前年同期比	4,194	5,136	210	-2,435	791	7,896
	学内者	28,221	31,390	30,878	38,198	14,371	143,058
	前年同期比	90	122	132	147	89	580
	その他学外者	234	347	420	269	257	1,527
地域住民登録者数	前年同期比	-20	0	-11	-8	-8	-47
		30	18	18	6	21	93
貸出冊数 (学生)	前年同期比	-282	-214	-153	-481	79	-1,051
	全体	1,609	2,092	2,493	3,032	1,305	10,531
	前年同期比	-53	-69	0	-117	156	-83
	内、夜間	305	575	697	780	215	2,572
	前年同期比	-66	-47	-110	-21	9	-235
	内、土、日曜	142	199	119	330	156	946
	一人当たりの貸出数	0.25	0.33	0.39	0.47	0.20	1.64
貸出冊数 (教職員)	前年同期比	-200	31	56	2	-115	-226
	全体	514	281	369	316	175	1,655
	前年同期比	11	-8	0	57	15	75
	内、夜間	85	57	109	137	31	419
	前年同期比	64	4	-4	-3	-15	46
	内、土、日曜	73	15	18	33	12	151
貸出冊数 (その他学外者)	前年同期比	33	33	10	17	-48	45
	全体	142	133	172	67	99	613
	前年同期比	18	11	28	15	6	78
	内、夜間	37	54	74	33	9	207
	前年同期比	-13	-1	-21	-16	-8	-59
	内、土、日曜	21	27	37	9	22	116
AVライブラリー 利用件数	前年同期比	-11	3	25	-8	7	16
	学生	12	26	44	13	10	105
	前年同期比	16	0	-1	1	7	23
	教職員	28	19	11	6	7	71
	前年同期比	3	-4	-3	-4	-9	-17
	その他学外者	3	0	1	1	0	5
相互利用 (文献複写) 申込件数	前年同期比	-104	27	-10	-43	-75	-205
	学生	121	214	218	124	79	756
	前年同期比	35	-13	-56	47	-4	9
	教職員	75	31	23	79	43	251
	前年同期比	0	0	0	0	0	0
	その他学外者	0	0	0	0	0	0
相互利用 (現物貸借) 申込件数	前年同期比	-9	2	10	3	1	7
	学生	1	12	19	16	9	57
	前年同期比	15	-1	-6	-13	-6	-11
	教職員	20	9	9	9	10	57
	前年同期比	1	0	0	0	0	1
	その他学外者	1	0	0	0	0	1

〈貸出冊数についての注記〉

1. 教職員の貸出には、専任教員の研究室貸出分を含まない。
2. “夜間”とは、平日の17:00~21:00の夜間開館時間を指す。
*なお、4月1日~4月11日、8月7日~9月20日、1月30日~3月31日の期間は夜間開館を行っていない。
3. 地域住民への貸出は、7月11日~8月4日、1月4日~1月29日の期間は停止している。
4. 学生一人当たりの貸出数は、平成18年5月1日現在の御井キャンパスの学生数で算定。

編集・発行 久留米大学御井図書館
〒839-8502 久留米市御井町1635
TEL (0942) 44-4015
FAX (0942) 43-0348
<http://www.mii.kurume-u.ac.jp/miilib/>